

四七年七月辭任

七月一四日 広島県比和町八幡
七月 大分空港・豊後森・中津・広島

一〇月 新潟大学で開催された人類・民族二学会連合大会の後の
エキスカーションで佐渡をまわる。

〔二学会連合・佐渡見学〕 両津・相川尖閣湾・八幡ホテル泊（鬼太鼓・文弥
人形）、真野御陵・国分寺・明宣寺・両津

51歳

一〇月 雑誌「民話」創刊。

編集委員として参加し、三九年九月、第二四号までで停刊になるまで、
ほぼ隔月に「年よたち」を連載。

洗濯（62歳）
東京国際貿易センター会長、六月、日本対癌協
会会長就任

52歳

八月 九学会連合佐渡調査に民族学会から参加。

〔九学会連合佐渡調査〕

八月四日 両津・相川（泊）、五日片辺・高千・小田（稲場美作久宅泊）、六日小
田・真更川（泊）、七日内海・府北小浦（泊）、八日北小浦・黒姫・バス・両津（洗
澤敬三迎え）・畑野村後山（本間雅彦）・大久保、九日大久保、一〇日大久保・
真野・バス・小木・金田・沢崎（坂口宅泊）、一日沢崎・小木・宿根木・多
田（北島医師宅泊）、二日多田・岩首・柿ノ浦・東小浦・赤玉（山本宅泊）、
一三日両津・畑野（本間宅泊）、一四日慶宮寺、一五日両津・新潟。

十二指腸潰瘍にて癌研究所病院田崎、緑川両博士より長期療養を
命ぜられる。

九月～年末 療養中で外出禁止の状態であったが、その間に「瀬
戸内海島嶼の開発とその社会形成」（学位論文）を執筆。

九月から筆をとり年末に纏筆。宮本の意志で進んで書いたのはこの
書物だけ。

一二月 『日本残酷物語』の刊行はじまる。

第一巻「貧しき人々のむれ」は一月三〇日発行。宮本常一、山本
周五郎、山代巴、榎西光速監修であるが、宮本のこれに注いだ情熱
は『風土記日本』に劣るものではなかった。

一二月二七日 広島県千代田町壬生

昭和34（一九五九年）

社会の動き

* 高度成長時代

- 59 メートル法実施（尺貫法
廃止）
- 59 国民年金法公布
- 59 皇太子結婚式
- 59 伊勢湾台風（明治以降最
大）
- 59 いわゆる若戸景気
- 59 輸出量、戦前水準を回復

農水産業・工業

- 58 食糧庁、中国タイスの輸
入を発表
- 58 神奈川県でヘリコプター
による粉状農薬の空中散布
始まる

生活文化現象

- 58 ポリエチレン国産化、積
水化学ポリバケツ製造開始
- 58 学校給養生乳（東京都）
- 58 ドレッシング発売
- 58 インスタントラーメン発売
- 58 缶ビール発売
- 58 コップ酒自販機登場
- 58 エプロン亭主
- 58 2DK団地完成
- * 銘柄清酒ブーム
- * 何でも下痢はサルモネラ菌
ポツリヌス菌
- * 農家の台所改善リニアキッ
チン
- * キッチンセットが並べば台所
* 石油ストーブ全盛
- 59 波形トタン普及
- 59 台所用洗剤ブーム
- 59 バキユームカー（東京都）
- 59 海洋投棄中止
- 59 黄色いサクランポ（歌）
- * 「家の光」型土間キッチン、
台所換気扇普及
- * ゴルフ場ブーム始まる
- * カミナリ族登場
- * 冷凍ミカン